

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニンダ 西田	ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	-----------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>アメリカのNCA（学会）において、異文化間コミュニケーションという領域が1つの分科会として発足したのは、1972年です。40数年という時間の中で、文化背景の異なる人とのコミュニケーションの理論が構築され、また方法論が明示されました。</p> <p>本講座の目的は、アメリカの異文化間の研究と、切り離すことのできない非言語の領域について学ぶことです。この目的を達するために、それぞれの領域をレビューした文献、理論をベースにした文献を批判的に読めるように指導します。</p>		
到達目標	<p>到達目標は、教科書として選定した専門書を批判的に読み、この40数年の研究を概観します。領域について、まず、学び、要約という形でレポートの前半を作成します。</p> <p>レポートの後半は、考察です。考察では、前半の要約で用いた専門用語を用い、自分の知識や経験について述べるができるかどうか、考察のレベルを判断する基準になります。</p> <p>換言すれば、レポートの前半(要約)では、領域の大半の専門用語を含んだ要約になっているか、レポートの後半(考察)では、領域の専門用語を用いた考察になっているかが、到達目標となります。</p>		
学修方法	<p>上記の到達目標を達するには、以下の学修をします。</p> <p>要約と考察という形で提出されたレポートを添削することによって、学修の状況を確認します。添削により指摘した部分につき、加筆、修正し、返送されてくる再提出のレポートを確認することにより、領域が正確に把握できているか、確認します。</p> <p>基本的に、1回の添削により、評価対象になるレポートを作成することができますが、必要な場合は、2回あるいは3回の添削指導も行います。</p>		
スケジュール	<p>提出時期は、9月中旬と1月中旬となります。</p> <p>それぞれのレポートの作成に当たっては、添削指導を行います。つまり、1回目の草稿を受け取り、1週間ほどを費やしコメントを付け、戻します。添削された草稿を受領したら、コメントを参考に、加筆修正し、2回目の草稿を提出します。</p> <p>十分に余裕をもってレポートの提出に臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。1つのレポートに、20%を配分します。
	平常評価	20%	草稿への加筆、修正のコメントに対する対応を評価します。1つのレポートに、5%を配分します。
履修者への要望	<p>基本的なことですが、教科書の課題範囲をよく読み、また、参考図書として挙げられている文献も、適宜理解を進める上で、よく読んでください。その上で、要約と考察をしてください。</p> <p>余裕のある人は、異文化間ではGudykunst, W. B. (グディカンスト)、非言語ではMcCroskey, J. C. (マクロスキー)は大きな名前(1つの時代を築いた人物)ですから、原書を英文で読んでみるのもいいでしょう。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グディカント, W. B. 教材名： 『異文化に橋を架ける』（聖文新社, 1993年）ISBN:978-4-79-220146-3 2,450円+税 ※受講者には事務課から発送します。
	本書は、対人・異文化間のコミュニケーション理論を背景に、基本概念及び理論を構成する概念を用いて、体系的に現象をとらえた書です。 ストレンジャーという概念を導入し、初対面の人との初期行動という観点から異文化間のコミュニケーションを捉え直した。多様性の理解、行動の期待などについて論じています。
参考図書	Gudykunst, W. B. (2003). <i>Bridging Differences: Effective Intergroup Communication</i> . Sage Pubns. ISBN:978-0-76-192937-6
履修上のポイント	本書は、1つの理論に基づく、一貫した異文化間コミュニケーション論の専門書なので、他の本と比べると、専門用語が多く使われています。この種の本を読むのは初めての人には、少々しんどいかかもしれませんが、十分時間をかけ読んでください。
レポート課題 1	ストレンジャーとのコミュニケーションの理解について、教材を要約し、また、知識と経験をもとに考察せよ。 <b>留意点</b> ：第3, 4, 5章を要約せよ(3,000字)。1つの章(テーマ)を取り上げ、考察せよ(1,000字)。
レポート課題 2	コミュニケーションのプロセスと能力について、教材を要約し、また、知識と経験をもとに考察せよ。 <b>留意点</b> ：第1, 2, 6章を要約せよ(3,000字)。1つの章(テーマ)を取り上げ、考察せよ(1,000字)。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド & マクロスキー, J. C. 教材名： 『非言語行動の心理学』（北大路書房, 2001年）ISBN:978-4-76-282220-9 3,200円+税
	本書は、メッセージを形成する非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーションモデルを理解するには、最適の専門書といえる。 外見、ジェスチャー、感情表現、視線行動、対人距離、接触、接近性のテーマを含め、基本的領域をカバーし、その後の章は、前半の基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場をテーマとしています。
参考図書	大坊郁夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社, 1998年）ISBN:978-4-78-190888-5 1,500円+税
履修上のポイント	本書は、アメリカの非言語コミュニケーション研究の集大成ともいえるべき書です。1970年代以降の研究結果が網羅されています。じっくり読んでください。 各章には、用語集もつけられているので、基礎概念を理解し、要約するのに役立ててください。
レポート課題 1	第2章～第5章、第7章～第9章の中から3つの章を選び要約し、さらに、その中から、1つのテーマ(章)について、知識や経験をもとに考察せよ。 <b>留意点</b> ：要約は3,000字でまとめよ。考察は、1,000字でまとめよ。
レポート課題 2	第10章～第13章の中から2つの章を選び要約し、さらに、その中から、1つのテーマ(章)について、知識や経験をもとに考察せよ。 <b>留意点</b> ：要約は2,000字でまとめよ。考察は、1,000字でまとめよ。